

# 信州読書会 ツイキャス読書会

## 課題図書 吉村昭『桜田門外ノ変』

信州読書会では、毎週、ツイキャスをつかった視聴者参加型の読書会を開催しています。

信州読書会のメルマガ登録者は、課題図書の読書感想文を 800 字で書いていただければ、放送中に紹介します。

(募集要項はメルマガでお伝えします)

また作品に関する質問・感想などは、どなた様も、放送中ツイートいただければ、とりあげます

信州読書会 ツイキャス <http://twitcasting.tv/skypebookclub>

『信州読書会』メルマガ登録はこちらから [http://bookclub.tokyo/?page\\_id=714](http://bookclub.tokyo/?page_id=714)

今後のツイキャス読書会の予定です。 [http://bookclub.tokyo/?page\\_id=2343](http://bookclub.tokyo/?page_id=2343)

課題図書はこちらでお求めください <http://astore.amazon.co.jp/sphinx01-22>

『ツイキャス読書会』音声のバックナンバーです。

<https://www.youtube.com/playlist?list=PLVj9jYKvinCsgP7jtFgzqxea6cgqd7mrf>

(感想文は動画の下の説明欄に PDF へのリンクを張ってあります。)



第 24 回のツイキャス読書会の課題図書は、吉村昭先生の『桜田門外ノ変』です。

読書感想文を提出して下さった皆さんありがとうございます。

## 『桜田門外ノ変』感想文

読み始めてすぐ、このような描写がありました。

『関鉄之介は、かすかに頬をゆるめた。涙と唾液をたらし口に青竹をくわえさせられているのに、谷田部が虚勢を張っているのが滑稽に思えた。』

対立してしまったとはいえ、元同士への、この態度に初っ端から、主人公に対して嫌な印象を受けてしまいました。

「桜田門外ノ変」実行後鉄之介は逃亡中、斉昭の御逝去の報せる手紙をみてこう想いをめぐらせています。「桜田事変は斉昭を執拗におとしめた井伊直弼に対する報復で、斉昭さえいなければ、妻子とともに安穩に過ごしていただろう。」と。

攘夷論が現実と遠く遊離したもので、鉄之介自身にも、全てを捨て去るのと同様なビジョンがなかったとしたら、拷問死した鉄之介の恋人いのさんが、特に気の毒だと思いました。

終盤、痔と糖尿病を患いながらの逃亡シーンが、妙にリアルでした。

この小説は「桜田門外ノ変」実行犯のひとり、関鉄之介の半生が丁寧に描かれています。史実や人間模様等、主人公の事細かな描写を通じて周辺の登場人物、入り組んだ歴史的背景にもかかわらず頭に入りやすかったです。歴史に疎く、「桜田門外ノ変」という言葉さえ知らなかった私でも事実関係は、何とか理解できました。

実際問題どうしようもない事にぶつかった時、自分はどうするのか、考えさせられるきっかけにもなりました。自分だけで読書をしていたらまず、一生読まなかった本なので、よい機会でした。ありがとうございました。

(おわり)

## 『喧嘩両制裁』

宮澤さん僕なんとか苦手分野の歴史小説初読破に頑張りましたよ。と、まず最初に喜びを言いたいです。意外にも本当におもしろかったです。(この表紙からして渋すぎる) 自分でも発見だったのは改めて読まず嫌いは駄目だなと感じたことです。

帝国軍率いるスターウォーズの悪役ダース・ヴェイダーが、井伊直弼として読ませてもらいました。齒向かう者は、しょっぴかれ皆殺しという酷い時代だなと思いました。それに対して反乱軍としての水戸藩の襲撃者達。

襲撃がほぼ予定通り遂行出来ており、水戸浪士の森五六郎が彦根藩士の前衛を斬り込み先頭に人を集めている間に左右で待機している襲撃達が駕籠を狙うという計画の高さが事件当日もそのまま凄いなと思いました。

魅力的な人物として惹かれたのは、やはり有村次左衛門です。

この方が唯一、薩摩浪士であり、薩摩弁で叫び(なんて言ったのか鉄之介にも理解できないのが悲しい。)薩摩の刀で井伊直弼の首をとるのが実際の話としてもこの小説の物語として出来すぎていて凄いなと思いました。

さらに井伊直弼の首をとった後で、彦根藩士の小河原秀之丞に重症の傷をおっても歩行が困難になるだけでなくには死なず、へそ周辺やのどを刺しても死にきれないので、協力を求めるがみんな恐ろしがってしまい、死にたいのに、すぐに死ねないタフなこの浪士に魅力を感じました。

鉄之介が痔持ちであったり、密尿病(糖尿病)であることが凄くリアリズムに感じました。

映画版では、鉄之介の愛人いのが石抱きの刑や酷い拷問をされていて、鉄之介の行方を本当に知らないのにそのまま殺されてしまうのは酷いと思いました。

あとがきを読むと鉄之介の息子が生き延びた(お孫さんまでいた)ようで、鉄之介の希望通りになっていたのに救いがあったなと思いました。

※獄門、遠島・追放の意味がいまいちわからなかったので解説して頂けると助かります。

(おわり)

イノマンさんのブログです。 『イノマンブログ』 <http://ameblo.jp/inoman-1984/>

## 「世のなかをいとふこゝろか山桜おのが姿を水にうつして」

水戸藩下級藩士の関鉄之介の生涯を追ってみて感じたのは、人間は自分の為だけに生きるはなんと難しいことなのだろうということだ。

「桜田門外の変」が彼の人生のすべてではない。世にも大きな変であったが、鉄之介にとっては人生の一部でしかないのだ。井伊大老暗殺を通して、水戸藩の志士たちや逃亡後の匿ってくれる人々との信頼関係こそが彼の人生なのだと思う。彼自身が積み上げてきたものだ。

最初は、下級藩士からの脱却を目指してのハングリー精神だったかもしれない。藩校弘道館での俊英になり、その後は藩に取り立てられていく。弘道館での尊王攘夷思想に影響を受けたのは確かであるが、井伊大老暗殺直接の動機ではないと思うのだ。

それは、藩主徳川斉昭が亡くなった際、「自分の人生が斉昭のためにあったのだ。もしも斉昭という存在がなければ、自分は下級藩士として妻子とともに水戸城下で安穩にすごし…」とある。自らが心身を捧げた斉昭の栄誉を維持するための桜田事変なのだ。

鉄之介にとっての斉昭のように、鉄之介のためなら危険を冒す人々もいるのだ。それは、彼が築いてきた人間関係であり、人徳なのだと思う。

人間は、自分以外の何かの為にしか生きられないと思う。それが人によっては家族や友情であったり、信条であったりするかもしれないが、この作品で鉄之介に寄り添ってみて、強く感じたことだ。拷問の際も自分の為だけであれば、何人もすぐに降伏してしまうだろう。誰かを思わないと強くなれないのだ。

私は日本史が好きで、テストの際は点が取れる教科だった。だからこそ、自分は日本史に詳しいと思い込んでいた。もちろん、「桜田門外の変」の史実は知っていたがこの小説を読んでいかに自らが無知であったかに打ちのめされた。たった一行で表される「変」の裏にいかようなドラマがあったことか…。

和歌を詠み日記を多く残した関鉄之介に、文学好きな私は勝手に親近感を感じた。彼と共にこの緊迫した桜田事変を追えたことは、何にも替え難い充実感があった。

(おわり)

岡山読書会のブログです。過去のコラムなども掲載されています。ぜひご覧ください。

<http://ameblo.jp/kaoru8913/>

スカイプで個別読書を主催されています。ご興味ある方はブログからお問い合わせください。

# 「政治史は、意志の歴史である」

大老 井伊直弼を襲撃した水戸藩士の斬奸趣意書には「外国の圧力におびえた幕府が、不当な条約を朝廷の意向を無視して独断でむすんだことは、国体をそこなう大失態である。」という内容が記されていた。

日米修好通商条約への違勅調印や将軍継嗣問題をめぐって、水戸藩と幕閣老中との対立が決定的になり、井伊直弼による安政の大獄によって、苛酷な政治弾圧が行われた。

この小説の主人公、関鉄之介は、この政治弾圧に巻き込まれ、何かに引きずられるように、桜田門外ノ変の首謀者となる。

ショウペンハウエルの『読書について』には、「政治史は、意志の歴史である」との内容がある。

藩主の命でもないのに、勝手に井伊直弼を暗殺し、その後、逃亡するという主人公の人生は、狂気に近いような意志の力で行われている。

その意志は、水戸藩と朝廷と国体を一本で結ぶ、尊皇攘夷論によって強められていた

そもそも、その尊王攘夷論は水戸学から派生しており、具体的には、藤田東湖と会沢正志斎という二人の水戸学の思想家が主導したものだった。

とりわけ、会沢正志斎は、『桜田門外ノ変』の首謀者に深い影響を与えた思想家で、その影響力は全国にネットワークを形成していた。

関鉄之介ら、『桜田門外ノ変』に加わった水戸藩士の意志を育んだのは、水戸藩の教育である。その核心は、学問としての水戸学であり、政治思想としての尊王攘夷論である。

その政治思想の究極点が、国体主義＝超国家主義（ウルトラナショナリズム）だとすれば、実は、このイデオロギーは、現代においても未だ健在であるといえる。

明治維新の発端となった『桜田門外ノ変』の志士たちの意志は、二・二六事件など、その後の暗殺を伴うような政治的テロリズム通じる意志の表現であるといえる。

『桜田門外ノ変』の水戸・薩摩藩士に、現代の我々が共感するとすれば、それは、政治的意志への共鳴である。

日本の歴史の転回点で不気味に騒ぎ出す、この政治的意志を、近代人の知性によって見守らなければならない。

(おわり)

『信州読書会』 メルマガ登録はこちらから [http://bookclub.tokyo/?page\\_id=714](http://bookclub.tokyo/?page_id=714)

今後のツイキャス読書会の予定です。 [http://bookclub.tokyo/?page\\_id=2343](http://bookclub.tokyo/?page_id=2343)

課題図書はこちらでお求めください <http://astore.amazon.co.jp/sphinx01-22>